

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

*** 東京天文台百年記念誌資料―その2-22-2 東京天文台年表（大正14～昭和6年）**

筆者が引き継いだ東京天文台百年記念誌資料については、アーカイブ室新聞346号に「東京天文台100周年記念誌作成時の資料―その1―」、349号に「東京天文台100周年記念誌作成時の資料―その2―」、353号に「東京天文台100周年記念誌作成時の資料―その3―」、という記事を書いた。これらの資料は段ボール箱3個に入っていたので1箱目を―その1―、2箱目を―その2―、3箱目を―その3―としたのである。これらの資料についてリストのみでなく、内容を具体的に紹介する記事を書き始めたが、順不同で筆者が興味深いもののかってにピックアップして書いている。今回は2箱目の22項目について報告したい。第349号のリストには、20項目のリストがあり、それぞれの項目に更に多いものは46件のサブリストがある。今回は東京天文台の年表についての資料を記事にしてきたので、2箱目の関連資料をつまみ食いすることにした。2箱目の22項目目に、

22) 大正元年～昭和23年と書かれた封筒 年表の原稿 39～84ページ

とある。今回は、この原稿のP52（大正14年）～P60（昭和6年）までの年表を載せる。

この間の主な事項には（筆者が勝手に行間調整のため選んだ）

- 1) 大正14年2月：理科年表出版を始めた（ポケット型、定価1円50銭、発売：日本橋丸善）
- 2) 大正14年：子午儀室完成
- 3) 大正14年：京都大学天文台落成（ブラッシャー製13吋反射望遠鏡を設置）
- 4) 大正15年：65cm屈折望遠鏡ドーム、塔望遠鏡地下室完成
- 5) 大正15年：ゴーチェ子午環本格運用開始（第1回国際経度共同測定に参加）
- 6) 大正15年：太陽黒点観測結果の公表開始
- 7) 昭和2年：Tokyo Astronomical Bulletin（観測結果、天象予報、理論研究の速報）発行開始
- 8) 昭和2年：20cm屈折赤道儀、20cm彗星搜索望遠鏡納入、トロートン・シムス20cm屈折望遠鏡は隠居
- 9) 昭和3年：東京天文台長 平山信→早乙女清房
- 10) 昭和3年：太陽塔望遠鏡購入
- 11) 昭和4年：65cm屈折望遠鏡 ドイツ・ツァイスから購入
- 12) 昭和5年：射場保昭の私設天文台開設（英12吋反射赤道儀望遠鏡、中村要作4吋、7.5吋屈折望遠鏡を設置）
- 13) 昭和6年：65cm屈折赤道儀望遠鏡据付完了 試験観測
- 14) 昭和6年：太陽塔望遠鏡でスペクトルが得られる。

大正	号	項	出 典	No.
14 (1925)				
14. 2 中旬		理科年表。数年前より計画され、一昨年より東京天文台で編纂に着手。大正14年に訂正第1冊、昨年中に出版予定であったが、大正14年2月中旬に出版。 一般理學の教育、研究及び応用は用いるための毎年発行 菊判半載。目次10頁、本文313頁、索引16頁、巻紙902 綴、ポケット型。定価1冊50銭。発賣 日本橋丸善 株式会社 層部及び天文部は東京天文台の編纂、他に気象、物理、 化学、地理、地震部門があり、中央气象台長、東京帝国 大学教授の監修により編纂	月. 18-3, p. 27 (大14.3)	1004
14		理科年表の発行 大正14年合より		
14. 3. 31		東京天文台技師 百濟敬直氏 休職中の起3月31日 願により本官免せらる。	守40年報 大正14年 15027 大正14年 13-14 同日 月. 18-5, p. 76, 77 (大. 14. 5)	522
14. 3. 31		東京天文台技師 河合章一郎。3月31日願により本官免せらる		
14. 3		谷本 誠、石井章雄、辻光之助、野村誠夫、宮地政司氏等 大正14年3月東京帝国大学天文学科卒業。		
14. 4. 11		石井 辻、野村氏 4月11日東京天文台技師に 宮地氏は 東京帝国大学助手兼東京天文台技師に任命さる		
14. 4. 28		東京天文台技師 木下国助 東京天文台技師に任命さる		
14. 4. 30		東京帝国大学助手兼東京天文台技師 幸日野達 4月30日休職 命せらる。		
14. 6. 10.		東京付近各所の時計の誤差。 大正14. 6. 10 時の記念日 例年にならぬ鐘の宣伝、 調査さる。6月9日、10日に坂東英造、市村勇、河合章二郎 三氏により調査。詳述あり。	月. 18-7, p. 107 (大. 14. 7)	2025
14. 6. 10		無線報時修正値 6月10日から午前11時に報時さることに下った。電波長 は次の通り。東京無線電信局 (午前11時 接続電波 7700m 午後9時 減幅電波 4000m。) 金子無線電信局 (双波と4) 減幅電波 600m, 1925. 5. 11 (9 th P.M.) 6月 (11 th A.M. 9 th P.M.) 無線報時修正値	月. 18-7, p. 111 (大. 14. 7) 1925	2026
14. 6. 11		無線報時拡張 従来日曜を除き毎日午後9時無線報時を(21分を) 6月11日から午後9時報時は年中無休、更に日曜祭日 を除き毎日午前11時10と12分同様の報時をさる	月. 18-6, p. 94 (大. 14. 6)	2025
14.		船橋及び金子無線報時修正値 1925. 1月, 1925. 2月, 1925. 3月 1925. 4月 但し18日は電線不通のため発信せず (午後9時)	月. 18-2, p. 31, 18-3, p. 47, 18-4, p. 62, 18-5, p. 77 (大. 14.)	2025

大正	要 項	出 典	頁 No
14 (1925)			
14	東京天文台に子午儀室が竣工	科学史研究 17号	18239
14	本台拡張の問題・子午儀室	学術大観 p493	12050
14	東京天文台の標準時の無線報時形式に日本式を制定	科学史研究 17号	18242
14	東京天文台の保時精度0.01秒に達す	科学史研究 17号	18241
14	天文学と天文時を廃止して常用時を採用	科学史研究 17号	18240
14	平山清次がブリュッセルでの国際学術研究会議を3 總會に出席し、また長岡半太郎・松隈健彦と共に ケンブリッジでの国際天文学同盟を2回總會に参加。	科学史研究 17号	18246
14	木村榮が帝國学士院會員となる	科学史研究 17号	18247
14	山本一清が帰国し京大天文学教授となる	科学史研究 17号	18248
14	京大中村要が太陽紅斑の定規観測を開始	科学史研究 17号	18243
14 12	田中静人がワルツ周期彗星を独立発見 (1850訂正)	科学史研究 17号	18244
14	京大天文台が落成し、ブラッシャー環 13吋反射望遠鏡を 設置	科学史研究 17号	18238
14	無線報時修正証		
	1925 7月 午前11時 及び 午後9時	月.18-8, p.127 (大14.8)	2026
	1925 8月 同上	月.18-9, p.143 (大14.9)	
	1925 9月 同上	月.18-10, p.158 (大14.10)	
	1925 10月 同上	月.18-11, p.172 (大14.11)	
	1925 11月 同上	月.18-12, p.191 (大14.12)	
	1925 12月 同上	月.19-1, p.15 (大15.1)	
	1926 1月 同上	月.19-2, p.30 (大15.2)	
15 (1926)			
15 3	帝國大学理学部天文学科を秋山薫、秋吉利雄、鈴木 政敏、窪川一雄、塚本裕四郎の五氏が卒業。	月.19-5, p.87 (大15.5)	523
15. 4. 10	鈴木、窪川 両氏 東京帝國大学助手兼 東京天文台技手 に任命する	"	523
15. 4.	三鷹新東京天文台の新計画 東京府下三鷹村に移した新東京天文台では尚完全な 観測を行へず、ために計画を延期。26吋屈折望遠鏡、 口径650mmのニードスタット及び口径450mmの レンズ(太陽観測用)、口径200mmの望遠鏡 用赤道儀を備えるより機械を注文。3年後には やがて完成した天文台に作るであらう。26吋赤道 儀ドームと太陽分光儀地下室は4月に完成し、	月.19-7, p.126 (大15.7)	5022

大正	昭和	要	項	出	典	カドNo.
15	(1926)					
15	= /	東京天文台で分光太陽写真儀室及4'65cm赤道儀室建物の落成	科学史研究 才17号		18250	
15		本台拡張の問題、分光太陽写真儀室(塔望遠鏡)竣工	学術大観 p493		12050	
15		経度観測 世界経度測量	学術大観 p552		12004	
15	= /	国際天文学同盟才二回總會決議による才一回国際経度共同測定に参加(東京天文台のゴーチエ製子午環が本格的活動を開始)	科学史研究 才17号		18252	✓
15		ゴーチエ製子午環本格的使用は万国経度測量の一環として行われた「時」の観測において。	月. 63-2, p105(1970)		5184	
15		天体の赤道観測 万国経度測量が活動の始の(橋元)	学術大観 p502		12022	
15	= /	東京天文台のゴーチエ製子午環の経度を東経 9時 18分 10.10秒と決定	科学史研究 才17号		18253	
15	= /	私清次・秋山彦が「小惑星の軌道の研究」により学術奨励金を受く(1928)	科学史研究 才17号		18246	
15	= /	及川奥郎(東京天文台技師)が小惑星3個を発見(以後1930年までに18個を報告、公認は三鷹・多摩・隅田・箱根・熱海・日光・利根の7個)	科学史研究 才17号		18255	
15	= /	東京天文台の太陽黒点観測結果を公表開始(註は野附誠夫)	科学史研究 才17号		18254	
15	= /	東京天文台が彗星の国際共同観測に参加	科学史研究 才17号		18251	
15	= /	東大理学部に41講座(内星学講座は依然2)	科学史研究 才17号		18249	
15		暦を編纂 本台ハ官制ニヨリ暦ヲ編纂シ 神宮神部署ヨリ之ヲ発行ス	東京帝国大学一覽 大正15-昭和2 本以前此の如く		15019	
15	9.15~11.30	無線報時利用による万国経度測量実施。	天文台100年 44年表			
15		現在の時刻及経度報告(914アンド744-ドフレーション)による報時出版物印刷	"			
15	12月	理科年表 才3冊 大正16年用 12月下旬発行予定 本文382頁 (前回同様) 内容程に改訂あり。索引-主語併記 には英語を入れたこと。	月. 19-12, p227 (大. 15. 12)		1019	
15		理科年表 各種ノ表ヲ併記シテ 暦書ヲ編纂シ 理科年表ト名ツケ 毎年之ヲ発行ス	東京帝国大学一覽 大正15-昭和2		15021	
15	昭5	変光星の光度観測 短周期変光星の研究(木下国太郎他)	学術大観 p.526		12017	
15		カール ツァイス 赤道儀 (口径 20cm, 焦点距離 259cm) スタインハイル太陽写真儀	東京帝国大学一覽 大正15-昭和2		16057	
15		神田茂(東京天文台技師)がフレネー慧星の極点より撮影した	科学史研究 才17号		18245	
15		トウキョウ アストロミカル ビルダンを出版。	185-19年15刷訂正 東京帝国大学一覽 大正15-昭和2		15020	
昭和初頃		天文台全書 フラッシュ-天体写真儀室を4北を向いて撮影 65cm大赤道儀室、太陽赤道儀室、本館 20cm赤道儀室。	月. 62-3, p112(昭初)		5189	

昭和	要 項	出 典	カド No.
2 (1927)	昭和2年皮川良郎 小惑星発見、軌道要素発表	学術大観 p.534	12009
2. 2. 7.	昭和2年1月中に東京天文台及び川、木下両氏によって発見した小惑星の発見観測、2月7日の写真から皮川氏の発見した。	月.20-5.p.98(昭2.5)	1006
2	木下國助(東京天文台助手)の小惑星2個の発見	科学史研究 才17号	18264
2.	理学士 田中 務 東京天文台に於て分光学研究の口唇誌	月.20-5.p.98(昭2.5)	524
2	理学士 白石通義、蓮沼左平男、中野三郎 東京帝国大学理学部天文学科を卒業し、東京天文台へ奉職。	月20-5.p.98(昭2.5)	524
2 5 1	東京天文台フレンド発行。観測結果、天象予報を不定期に出版し「報告」	月.20-5.p.98(昭2.5)	1006
又	「Tokyo Astronomical Bulletin」発行	学術大観 p.496	12036
2	東京天文台 Tokyo Astronomical Bulletin を発行(観測結果、天象予報、理論研究の速報)	科学史研究 才17号	18266
2. 5.	東京天文台、科学博物館、東京高等商船学校が共同主催の天文展覧会を開催	科学史研究 才17号	18267
2. 9	東京天文台長 平山 信 博士 昭和2年9月停年退職	月.21-6.p.111(昭3.6)	525
2 11. 10	水星の太陽面経過を観測のため、平山一清が台中へ出張	科学史研究 才17号	18262
2	ウネツケ 彗星観測のため平山一清が奉天へ出張	科学史研究 才17号	18263
2	橋元昌生が「フォーグ」の国際測地学及び地球物理学の3回総会へ出席	科学史研究 才17号	18265
2	国際経度共同観測事業に基づき、東北地方三角地帯での天文測量を実施(東京天文台助手 橋元昌生、辻 光之助、宮地政司等)	科学史研究 才17号	18261
2	東京天文台の整備; ヴァイス製実視用8吋赤道儀、同口径実用6吋赤道儀、8吋彗星捜査鏡、紅焰分光器を新設、助手6人、技手10人に増員	科学史研究 才17号	18259
2	2つの8吋赤道儀 ヴァイスの購入。 ○ 8吋新赤道儀 (写真用) 実視用。口径6吋写真用赤道儀を兼ね備え、マウント、紅焰分光器(写真用)、太陽フィルターを持つ2.5.レンズと最新式の赤道儀といえる。 ○ 彗星捜査鏡 (Comet-Seeker)。口径は8吋。天空の広い部分を視野に収めることのできる望遠鏡が軽く動くようにできる。 (東京天文台には原形8吋の各目的の結果として望遠鏡を3つ揃った。(従来実視的に用いられた8吋赤道儀はF総括に。)	月.20-12.p.237(昭2.12)	5033
2	移転以後の観測機械の購入。カール・ヴァイス社 20cm 赤道儀、20cm 彗星捜査鏡	学術大観 p.494	12047
2 ~ 11年	天文台の位置、麻布区飯倉 35°39'16", 139°24'40.8"	東京大学一覽 14-15 ~ 1911	16001

昭和	要 項	出 典	頁No.
2 (1927)			
2	京大宇宙物理学教室の「花山天文台」を設立	科学史研究 才17号	18258
2	倉敷天文台創設 (私設天文台の創始)	科学史研究 才17号	18257
2	新高等学校に6吋赤道儀を据付、購入は明治年間	科学史研究 才17号	18260
2 - 5年	緯度観測 三鷹の本台 35° 40' 21.28" (縮本)	*全18号に「神達 字体」大観 p.553	12003
2 - 3年	職員、台長 早乙女清彦、 教師(天体-122115の721150、人々) 田中 謙、 萩原 雄祐、 辻 光之助 (昭37 10155L)	東京帝国大学 豊昭2-3	16077
2	助会による人等、台長、教師6、技手10.	天文台関係 法令集	140/10
3. (1928)			
3. 1. 15	高橋潤三死去 脳溢血にて。58才。東京天文台技手。在職27年 歴の編纂に従事(福見記) 平朝田佐三郎記。暦学の大家 高橋左衛門の後裔。家代の厚体11名あり。	月. 21-2, p.39 (昭2.2) 月. 21-3, p.52	7
3	彗星捜索鏡について (蓮沼左男記)	月. 21-1, p.10~12 (昭2.1)	5024
3 3. (31)	東京天文台長の更迭 平山信博士。大正8年10月吉尾 寿氏の後 に継がれて以来10年向 東京天文台長。新東京天文台長 早乙女教授。実地天文学、天体物理学、特殊に 時辰儀学の權威	月. 21-6, p.111 (昭2.6)	525
3	東京天文台長更迭 平山信(2代) → 早乙女清彦(3代)	科学史研究 才17号	18272
3	平山 信が 東大名誉教授	科学史研究 才17号	18274
3	萩原 雄祐がハーバート大に留學	科学史研究 才17号	18275
3	平山台長 → 早乙女台長 (ジャバ島の太平洋学会議、マレー半島 及クローツァ島の皆既日食、ハワイの萬國 天文学協会總會出席)	学術大観 p.495	12046
3 7 5/13	ライオン市で 國際天文同盟才3回總會 (7月5日~13日) 平山 信 (副会長)・木村 榮 が出席	科学史研究 才17号	18273
3 10 18	札幌に北極光が出現	科学史研究 才17号	18276
3 10 28	水沢緯度観測所 山崎正光が10月28日にフォルマス・山崎 彗星を発見	科学史研究 才17号	18271
3	京大 甲村要が小惑星 1928 QM を発見	科学史研究 才17号	18270
3	東京天文台で「塔望遠鏡装置器械」を独 ツアースより買入	科学史研究 才17号	18269
3	太陽の分光学的観測 昭和3年 塔望遠鏡の 装置購入	学術大観 p.514	12019
3	移転以後の観測器械の購入。昭和3年 塔望遠鏡用 60 cm 平面鏡	学術大観 p.494	12047

昭和	要 項	出 典	カド No.
3 (1928)			
3	東京天文台で塔望遠鏡を起工	科学史研究 才17号	18268
3. 12 28	アインシュタイン塔の建築工事について。帝國大学管轄課長尾形一光 工期 昭和3年12月28日より昭和5年2月10日迄 設計: 東京帝国大学管轄課。 監督: 東京帝国大学管轄課 施工: 中村工務所	月. 23-5, p. 87 (昭. 5. 3)	5028
3	建設中の塔望遠鏡。三鷹村東京天文台。ドイツのツァイツ天文台 アインシュタイン塔に範をとつたもの。塔の高さ地上約18m, 塔上には直径650cmの反射鏡と450cmのレンズ設置。	月. 22-10, p. 217 (昭. 4. 10)	5026
4 (1929)			
4 3.	65cm大望遠鏡ドイツのツァイツ社より購入。秋 据付	学術大観 p. 508	12021
4	65cm大赤道儀。ドイツのツァイツ社より購入。(大赤道儀室)	月. 62-3, p. 114 (昭. 4. 3)	5169
4 5. 1.	標準正午の観測。東京号報日中三ヶ所の中心位置に改められた(限本有尚)	月. 24-8 p. 149 (昭. 5. 8)	2031
4	移轉以後の観測機材の購入 65cm大赤道儀	学術大観 p. 494	12047
4	東京天文台に26吋屈折望遠鏡が到着	科学史研究 才17号	18278
4 5 9	スリッポンへスマトラで皆既日食。早乙女清房・村岡助・ 尾形左兵衛・白石通英がマレー半島に出張観測	科学史研究 才17号	18279
4 5 9	皆既日食の観測 馬来半島 早乙女他	学術大観 p. 558	12001
4 5 9	皆既日食の観測 馬来半島 早乙女教授	学術大観 p. 54	12081
4	三鷹国際観測所にて強力な無電受信装置がほとんど完成	科学史研究 才17号	18277
4	東京天文台の保時精度0.001秒を確保	科学史研究 才17号	18280
4	神岡 清(東京天文台学生)が射ヶ座V356を発見	科学史研究 才17号	18282
4	京大 花山天文台で太陽分光写真(口径5cm)観測を開始	科学史研究 才17号	18281
4	早乙女清房がジャバでの第四回汎太平洋学術会議に出席	科学史研究 才17号	18283
4	山崎正光が太平洋天文学会よりドノホー懸賞見賞を受く	科学史研究 才17号	18284
4	小惑星の軌道計算 及川振影の位置位置の橢圓軌道要素を 計算(神岡)	学術大観 p. 534	12009
4	建設中の大ドーム 26吋赤道儀用大ドーム。ドイツのツァイツ社の 設計。製作。橋元技師監督の下に石川島造船所に於 て建設。	月. 22-4, p. 86, 87 (昭. 4. 4) 1929	5025
4 秋	大赤道儀の据付工事を終えて(写真あり) 橋元昌俊記 昭和4年秋、口径65cmの写真用対物鏡と35cmの指導用 対物鏡を備えた赤道儀が三鷹村東京天文台に据付された。 写真用の口径65cm。焦点距離10m21、指導用の口径35cm 焦点距離10m83、総重量約12t。尾形地上の高さ15m	月. 23-1, p. 9~p. 13 (昭. 5. 1) 1930	5027
4 10.	京大 花山天文台設立	天文台100周年記念号より	

内部20吋撮影(昭和100年)
昭和4年

昭和	要 項	出 典	ナ+No.
5 (1930)			
5. 3. 30	東京天文台太陽分光写真像室を増築す。	と京大学一覽 0344-45	16042
5	東京天文台で塔型遠鏡(高さ65 ^m , シーロアット口径65cm)が完成	科学史研究 中17号	18286
5	「日本天文学会要報」発刊 「月報」の天文学普及に偏した点を補はんが為、会員の研究論文の発表機関として随時発行	学術大観 p.498	12028
5	日本天文学会 要報 第1号が発刊	科学史研究 中17号	18289
5	職責 (昭和4年にのついでいの人) 板野 宮地政司	東京帝国大学一覽 昭5	16078
5	昭和5年の麻痺と大沢の地回	東京帝国大学一覽 昭5	16065
5 ~ 6年	小惑星の光度観測 エロス接近 位置観測 望視観測 (神田, 早乙女)	学術大観 p.525	12015
5 ~ 6年	恒星の分光学的観測 これに使用して小惑星エロスの撮影 (橋元昌英)	学術大観 p.508	12021
5	京大 花山天文台で46cm反射望遠鏡据付完成	科学史研究 中17号	18287
5	京大 花山天文台で分光写真機による太陽紅火の観測(補修)	科学史研究 中17号	18288
5	射場保昭の私設天文台の開設 (兼12吋反射赤道儀, 中村安作 4吋屈折赤道儀, 同7.5吋屈折鏡を設置)	科学史研究 中17号	18285
5.	及川復郎小惑星発見の功により学士院賞受賞	天文台100年 昭5年春21	

昭和	要	項	出典	カードNo.
6 (1931)				
6 1 12	白石通義死去 ハラフス 29才。昭和2年3月東京帝国大学理学部天文学科卒業後、理学部及び東京天文台に奉職。天体物理学の基礎的研究に没頭。昭和3年新探恒星団の改版に際し、神田茂氏等と共に盡力。天文月報掲載の毎月の「東京で見える星の掩蔽」の計算をした。(中野記)		月. 24-2, p. 37, (昭6.2)	8
6 4 15	藤田良雄 昭和6年3月東京帝国大学理学部天文学科卒業し、4月15日東京帝国大学助手兼東京天文台助手に任ぜられ、1月に死去した白石理学士の任事続行。尚4月に東京帝国大学理学部大学院に入学。		月. 24-6, p. 117, (昭6.6)	526
6 6 15	木下国助死去 明治32年(1901)5月26日東京市麹町区。大正13年東京帝国大学理学部天文学科卒業と共に東京天文台勤務。7年、理科年表編輯、短周期変光星観測、小惑星、彗星の観測及び位置測定等に従事。天体物理学の基礎的実験、水素のスペクトル研究。昭和4年5月29日皆既日食の際マレー半島に遠征。昭和2年(1927)東京天文台ブレテン出版と共に編輯を引き受ける。論文、天文月報論説、雑録あり。(志果あり)。(石野雄記)		月. 24-7, p. 132 (昭6.7)	9
6 7 22	長田が「北ホカリフォルニア」長田彗星を発見		科学史研究 才17号	18277
6 9 11	蓮沼左千男死去。肝疾 29才。明治36年5月8日、大阪府北河内郡生れ。昭和2年3月東京帝国大学理学部天文学科卒業、大学院に入り、天体物理学専攻の傍ら、東京天文台での観測業務を専攻し、その後助手に任ぜらる。時の観測に従事した他、12インチ8吋赤道儀により、小惑星、彗星の写真観測及びその測定計算をした。昭和5年秋頃より、26吋赤道儀による「エロス」の写真観測準備に専心。彗星接筒鏡、26吋赤道儀 据え付けに努力する。昭和4年マレー半島日食、木下、白石氏と共に出張。東京天文台ヒュルツェン、日本天文学会要報、天文月報 掲載論文、天文学の通俗化、及普及に努力。写真あり 中野記		月. 24-10, p. 194, (昭6.10)	10
6	白石通儀、木下国助、蓮沼左千男(いずれも東京天文台助手で天体物理学専攻)が相次いで死去。木下国助は東京天文台 技師 ← 科学史研究 才18号で訂正。		科学史研究 才17号	18299
6	平山清次、神田茂の「本邦天文古記録の蒐集」で東照宮300年記念会より補助金を受く。		科学史研究 才17号	18316
6	木村栄次、オランダ政府に勧告し、1931年ジャカルタ郊外ケリリヤン村にハッセル速度観測所新設、南緯測量局の中心運営。観測1931年より1940年4月まであり。7-9公表された。3		月. 68-10, p. 319 (昭50)	9082
6	カーンツァイ 大赤道儀 (口径50 cm 重量3ト 10.20 cm) 据付工事終了 (目下試験中)		東京帝国大学一覽 11366号	16056

昭和7年、8年天文台

昭和	要	項	出	典	号	頁
6 (1931)						
6	東京天文台でツァイス製 65 cm 赤道儀を据付. 試験観測を開始 (主任 橋元昌雄)		科学史研究	才17号	18292	(天竺 100年12月号2頁)
6	東京天文台でツァイス製 20 cm 赤道儀に紅外線光儀を取付け H α 線による紅星の連続観測を開始 (主任 早乙女清房)		科学史研究	才17号	18294	
6	天体の赤経観測 レフソルト子午儀にて観測始まる (辻光助)		科学史研究	才17号	18293	
6	東京天文台でレフソルト製子午儀による天体の赤経の連続観測を開始 (主任 辻光助)		科学史研究	才17号	18295	
6	東北大で 松隈健彦 (助教授), 一柳壽一 (助学) が仙台の緯度を測定		科学史研究	才17号	18290	
6	京大 花山天文台の組織が整備完成		科学史研究	才17号	18296	
6	京大 中村等が小惑星エロスの形状を観測.		科学史研究	才17号	18298	
6	上田 穰が京大天文学教授		科学史研究	才17号	18291	
6	東京科学博物館で 20 cm 赤道儀 (日本光学製) を据付		科学史研究	才17号	5029	
6	アインシュタイン塔 シーロスタート (写真あり). 東京天文台に新設されたアインシュタイン塔望遠鏡の最上部ドームに据え付けられたシーロスタート. ドイツ・カール・ツァイス社製. ニック鏡 (直径各 650 mm) を通して入射した太陽又は星の光線は, 約 13.7 m を直降して地下室の分光器に入り, スペクトル写真が得られる. シーロスタートを動かす原動力とする電動発電機は 近いうちに到着する予定 (無田)		月. 24-10, p. 197		(46610)	

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp